



ボランティアセンターだより

「年よりが一番つらいから寝たきり 老人家族は、手をつなごう」

七月八日(金)福祉会館において、市社協主催の第3回「ねたきり老人家族の集い」を開催した。

この「集い」は、昨年九月に市社協が実施した「在宅ねたきり等老人及び介護者(家族)の実態調査」の集計で、孤立する介護者がお互いに励ましあい、情報

ねたきり老人家族の集い



交換等をする「ねたきり老人家族の会」への入会希望者が全体の十七・八%(六十八名)に上ったことを大切に受け止め、入会希望者に呼びかけて行ったもの。当日は、介護者七名を中心に、ボランティア、保健婦、ケースワーカーなど総勢二十名が集まった。

簡単な自己紹介のあと、介護者が介護上の悩み、介護者としての孤立感等活発な懇談がなされた。

「集い」が進む中で、単に介護者がバラバラに悩みを話すだけでは結局実態はまったく改善されないの、「ねたきり老人家族の会」として組織的にさまざまな問題解決に向けて取り組む

声

最近、新聞紙上では「超高齢化社会の到来」の言葉のもとに「ボランティア」という言葉が毎日のように掲載されている。そして、昭和六十三年度の厚生白書では、ついに「在宅福祉サービスの担い手としてのマンパワーの量の確保と向上」が強調され、「マンパワーの量」の部分ではボランティアの確保に焦点が当てられ、行政サイドのボランティアに対する期待もますます大きくなってきた。

「ボランティア」とは、もともとは、自発的な活動であったはずなのに、いつのまにかその自発性の部分が欠落し、サービスの提供者としての位置付けに成り下がって呼ばれているのではないのか。

単に、安上がりな「便利屋さん」ではない。市民同士の心と心をつなぎ、暮らしを自分たちで考えていく主体的な活動ができていくかどうか。もう一度原点に振り返る時が来ているのではないのか。

必要があると一致し、四名の介護者が「家族の会」準備委員として選出された。準備委員は、今後の「会」を検討することになっている。

「実際は、私たち介護者よりも介護されている者がもっとつらいはずだから私たちも手をつなぎがらばろう。」と準備委員から力強い意見が出された。この「集い」にボランティアとして参加して……

私は、この「集い」に、「介護者がどんな手助けを

「子供が広げる地域の輪」

六月三十日(火)に市立福祉会館で、「ボランティア協力校関係者会議」が開催された。

ボランティア協力校とは、「小・中・高校の学童・生徒を対象として、社会福祉

の理解と関心を高め、社会福祉・社会連帯の精神を養うとともに、学童生徒を通じて家庭及び地域社会へ啓発を図ることを目的として、市内では、左表の九校とそれぞれの校区福祉委員会が指定(内二校が市社

協独自で指定)をうけている。当日は、協力校の校長先生をはじめ生徒指導の担当教諭、校区福祉委員会の会長、大阪府社会福祉協議会の職員、市社協事務局等総勢三十五名が集まり、ボランティア協力校の趣旨についての説明を聞いた後、昨年度の事業実績や、今年度の抱負等について熱心に懇談が繰り広げられた。

必要としているのか。又その中で私たちにはどんなお手伝いが出来るか。」を知りたくて参加しました。その中で、介護者の方々にとっては日常的な介護の労力よりも、精神的な支えが最も大切で、ねたきり老人の介護をする人達がお互いの悩みを打ち明けあい、励ましあえる場を欲しがっておられる事が分かりました。ボランティアとして、ボランティアを受ける側の人の声に耳を傾けることが最も重要に感じました。

学校名	校区名
野田小学校	野田
南丘小学校	新千里南町
第十六中学校	北条
原田小学校	原田
第七中学校	庄内南
第十中学校	野田
第十三中学校	刀根山
庄内南小学校	庄内南
少路小学校	少路北緑丘

ボランティア活動総合補償制度のご案内

保険の種類	ボランティア保険	有償活動保険	子供保険
加入対象	ボランティア活動に参加する方	府下・地域を対象として有償活動を行っている団体	地域で活動している子供を中心としたグループ
保険期間	毎年4月から翌年3月31日までの1年間 (途中加入の場合、毎月、1日、10日、20日から発効)		
掛金	年間1名 300円	年間1名 1000円	年間1名 150円

供たちにボランティア活動についての意識の芽生えを感じられる。」等さまざまな報告がなされた。また、校区福祉委員会からも「子供たちの活動を通じて地域に大人やお年寄りとのふれあいができてきた。」等、子供たちの力による福祉の町づくりの報告もされた。

今後、ますます都市化が進み、地域のつながりの希薄化が予想される今日、市社協では、子供から大人へ大人から地域へと福祉の輪を広げる一翼を担う意味でも、今後、この事業を市内全域に広げられるよう努力していく予定である。

昭和六十三年より ボランティア

登録・派遣スタート

市社協では、「ボランティア活動したいけれど、どこに連絡してよいかわからない。」「ボランティアに来てもらいたいけれど、どのようにさがせばよいのかわからない。」「等の皆さまの声にお応えし、昭和六十三年よりボランティアの登録・派遣制度をスタートさせました。

(1) 登録状況

現在センターに登録しているボランティアは、七十八人(七月末現在)。内、男性は、わずか四名。

登録者の性別



地域別登録状況



又、地域別の登録状況をみると、北部に登録者が多く、南部は少なくなっています。

(2) 派遣状況

現在の登録ボランティアのうち、約二十名が通院介助・リハビリの手伝い・障害者の遊び相手・車イス介助等で活躍しています。

しかしながら、ボランティアの派遣は、地域を基本としているため、地域にボランティアがいなければ、他の地域からの派遣になりにくくなか対応しにくいのが現状です。

特に、地域別で南部の登録者が少ないのに派遣ニーズは南部が高くなっています。

地域別派遣ニーズの状況



(3) ボランティア活動に参加して

車イス介助を始めたTさん「私にボランティア活動なんかできるかしら。と初めは大変不安でしたが、やってみればこんな事で人の役に立てるのかと視野が広がってきたように感じます。」

通院介助を始めたSさん「今の私たちのボランティアに対する一歩で将来私がお世話になるころにはきっと助け合える町になると思い頑張っています。」

(4) ボランティアに来てもらって

保健センターから庄内駅までの車椅子介助を依頼したMさん

「ありがたく感謝しています。それまでは、保健センターから庄内駅まで動きにくい体で一生懸命歩いて約五十分。センターに行ったら帰るだけで疲れ果てていました。今では、帰ったときの疲れが半分違います。ボランティアの方々も車椅子に慣れてこれ、道順も分からず、人通りの少ないところを選ばれ、助かります。大変結構な事業なので一人でも多くの方々に恩恵が与りますようにとアピールして欲しい。知らない人が多いのでは。」

在宅で機能回復訓練の手伝いを依頼したNさん

「ボランティアの方々かられるまでは、妻が働いていて、昼間は完全に一人でしたので、なかなかリハビリも進みませんでした。ところが定期的にボランティアの方が来られるようになって話した相手も出来たし、訓練の方も少し強合いができた様です。」

今後、市社協ボランティアセンターは、市民の皆様地域の福祉・在宅福祉の推進の拠点となりうるよう努力して参ります。皆さまの積極的な参加・ご協力をお待ちしています。

ボランティアの広場

在宅介護の実践講座のご案内

市社協では、昨年に続きねたきりのお年寄りを抱えている介護者や今後ボランティア活動をしてみたい人を対象に講座を開催します。日時：昭和六十三年十月四日から十一月二十九日まで。毎火曜午後一時三十分から約二時間(八回コース)内容：在宅介護の実践・介護者の心構えなど申込み：市社協ボランティアセンターへ直接又はお電話で。(八四一)九三九三福祉の町づくり講座のご案内昭和六十三年度より市社協では、小学校単位の講座を校区福祉委員会と共に開催します。今年度の開催校区は次の通りです。東豊中校区(昭和六十三年九月十九・二十・二十六・二十八日午後一時半から東豊中第二団地集会所にて)桜塚校区(昭和六十三年十月二十六日・十一月二・九・十六日午後一時半から桜塚小学校多目的ホールにて)豊南校区(昭和六十三年九月三十日・十月七・十四・二十一日午後一時半から豊南会館にて)庄内南校区(昭和六十三年十月五日・十二・十九・二十六日午後一時半から庄内南公民館にて)問合せ：各校区福祉委員会まで

編集 後校 記

「ボランティアセンターだより」第三号は、いかがでしたか。

センターの登録ボランティアも徐々に増え、この号よりボランティアによる編集委員会を設置し、新聞の企画・取材の段階からボランティアの方々の参加により作成することになりました。今後は、よりボランティアの身近な問題を取り上げていけるよう努力して参ります。市社協ボランティアセンターに対するご意見・希望をどしどしお寄せ下さい。

ボランティアセンターの場所

